

研究所ニュース No.71

りべらしおん

「りべらしおん」は、フランス語で「解放」という意味です。

発行：公益社団法人 福岡県人権研究所

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13-50 福岡県吉塚合同庁舎4階 TEL 092-645-0388
FAX 092-645-0387 Mail:info@f-jinken.com URL:http://www.f-jinken.com

第 185 回定例研究会 (第 1 回外国人部会・ジェンダー部会)

「私の出会った移住女性労働者たち」

(問題提起/大川映子さん)を開催しました

2015.6.28(日)

福岡市

ココロンセンター

2015年6月28日(日)、福岡市人権啓発センター(ココロンセンター)研修室で、第185回定例研究会(本年度第1回外国人部会と第1回ジェンダー部会を兼ねる)を行いました。

テーマは「私の出会った移住女性労働者たち」。問題提起を、外国人技能実習生権利ネットワークの大川映子さん(ユニオン北九州/写真左)



にお願ひしました。

大川さんは、これまで問題解決に取り組ん

できた事例をもとに、農家や縫製工場などでの1日18時間の過酷な労働や、残業代の未払い・搾取などの実態や、移住女性、技能実習生・研修生たちの現状について報告しました。私たちが「安い安い」と思って購入している野菜などは、こうした移住女性たちの過酷な労働や搾取の上に成り立っていることに気づかされる問題提起でした。

参加者の感想から

○ 体験談をもとに、報告していただいたので、

とても心に響きました。

- 一人一人の人権を守ること。とても大切ですね。これからも「人権」を大切にしたい取り組みを続けていきたいです。
- 人権侵害に対してきちんと認識して、闘うべき時は闘わないといけないと思いました。ユニオンの活動や労働組合の必要性を痛感しています。外国人研修生の問題は少しも改善していません。何ができるわけでもないですが、せめて知らなければと思います。参加して良かったと思います。
- 普段、一般の市民はあまり関心がない話題です。本当はそうではいけないのです。大事なお話だったと思います。
- 本日の定例研の内容は、福岡、大分、佐賀等の事例として、保証金、貯金、生活費など数字や写真を入れて、特集(機関誌)の中で紹介していただけると良いのでは。



定例研の様子(撮影/事務局)

< 報告 >

第34回九州地区
部落解放史研究集会
2015. 8. 1(土)~2(日)
宮崎県都城市

2015年8月1日(土)~2日(日)の二日間、宮崎県都城市五十市(いそいち)地区公民館で「第34回九州地区部落解放史研究集会」を開催しました。(本研究所は主催の「九州地区部落解放史研究連絡協議会」の構成団体です。)

地元報告(8/1)は黒木広志さん(宮崎市部落史研究専門委員会)の「しくと慶賀(せいらい)の人々『庄内地理志』より」でした。『庄内地理志』は、寛政10(1798)年~文政期(1830)年に都城島津家の記録方の役人が中心になって編纂した都城領域の地誌です。地域性のある「被差別民の呼称」や「生業と役負担」などが報告されました。

午後、仮屋睦男さん(宮崎部落史研究会)による「K家文書より見える被差別部落の暮らし」という報告でした。直左衛門が記した「日帳覚日記」をもとに当時の「被差別部落の役負担」の実態や、現在の道路で約75

km離れた被差別部落の人たちがお悔やみに訪れたことなどを例に、その「つながりの強さ」が報告されました

続いて福岡県京都行橋部落史研究会の西田静さん(会員)が「こんなことをやりました~京都行橋の社会科教員が考えたこと~」というテーマで報告しました。江戸時代、明治時代・大正時代・戦後にわたる「身分制・部落解放史学習の考え方」は「部落史の教材化」についての問題提起でした。報告の中で西田さんが「解放学級や促進学級にはたくさん通いました」と言われたように、地域と結びついた実践報告でした。

2日目は、朝治武さん(大阪人権博物館長)の「戦争と被差別部落」という記念講演でした。戦時における「部落と部落差別の変容」、「全国水平社の分岐と消滅」、「戦争協力の論理と形態」等の問題提起は、敗戦70周年を振り返る視点を参加者に示すものでした。

研究集会での報告や、二日間にわたる活発な論議の内容は、『リベラシオン』160号に掲載される予定です。

(事務局 峰 司郎)

第21回
全国部落史研究大会
in 熊本市
2015. 7. 25(土)~26(日)
に参加しました

竹永 茂美 (会員)

2015年7月25日(土)~26日(日)、熊本学園大学(熊本市)で「第21回全国部落史研究大会」が開催されました。大会は「前近代分科会」と「近現代分科会」の二分科会構成で福岡県から

は、前近代分科会で石瀧豊美さん(理事)が「福岡藩における三つの被差別身分について」というテーマで発表しました。私は、近現代史分科会(テーマ「高度成長期における部落問題-同和対策審議会答申成立をめぐる諸問題」)に参加。50名以上が参加して始まりました。

* * *
一本目は割石忠典さん(芸備近現代史研究会)の「内閣同和対策審議会と全日本同和

対策協議会-全日本同和会結成前後の活動とその影響」という報告でした。冒頭、「同和対策審議会答申は部落解放運動の成果なのか?」と問題提起されました。この問題を解くために①この時期(1960年前後)解放運動がなければ同和対策審議会答申は出なかったのか? ②自民党と同和対策審議会答申との関係は? ③解放運動以外の動き(地方自治体からの働きかけや自

民党議員の働きかけ等)があったのではないかと

の三点の仮説を立て、柳井政男(山口市議・県議、全日本同和会初代会長)との関係で説明されました。

二本目は井岡泰時さん(天理大学)の報告「1950年代の被差別部落の状況と政策形成-奈良県を事例に-」でした。

井岡さんは「1950年代を中心に奈良県行政が県内被差別部落の状況をもとに、どのように政策形成を行ってきたかを史料をもとに事実を確定し、その足跡を明らかにしてみたい」と課題設定されました。奈良県の概況と主な研究成果として1983年『奈良の部落史本文編』、2002年『新版水平社の源流』、2003年の『奈良県同和行政事業史』が挙げ

られました(この他にも10点以上あるそうです)。

年代別の詳しい報告を聞き、奈良県行政の積極性や奈良県同和問題研究所の取り組みが先進的であったことを知ることが出来ました。戦前期の融和事業・同和事業、融和教育・同和教育は今後の課題と考えました。

二日目は山本尚友さん(熊本学園大学)の「熊本の被差別部落の成立とその展開」という全体講演でした。私が注目したのは肥後国では「カワタ」の名称が1338(建武5)年の『詫磨文書』に「馬渡カワタ作」とあることでした。『詫磨文書』は慶長期からの検地帳で全国的にも希な存在です。これについて会場から、「1345年茨城県吉田神社の写しに

カワタとあり、東海筋からカワタが発生していないことになるのではないかと、また起源が遡ることになるのではないかと」という意見もあり今後の課題と考えました。

三本の報告を聞き、自分の研究ではまだまだ資料集めや調査・研究が足りないことと反省する事の多い一方で、新しい知見や資料を得た実りのある研究会でした。

二日目の午後は、熊本市内のフィールドワーク(加藤清正が祀られている本妙寺、唐崎神社、下川原処刑場跡など)でした。座学では得られない感動を得ました。来年は京都で開催予定です。

(松本・井元研究会会員)

部会紹介: 海外人権ST企画部会

「海外人権スタディーツアー」のこれまでとこれから

~ 2015年度海外人権スタディーツアー企画部会スタート ~

1 これまでの経過

海外人権スタディーツアーは、2004年、研究所の「県民啓発事業」として開催した「韓国スタディー・人権ツアー」から始まった。以来、2014年の第11回「スリランカ人権スタディーツアー」まで毎年開催され、参加者は延べ229人となった。目的地はこれまで、台湾・タイ・韓国・カンボジア・スリランカとアジアの各地へと幅を広げた。その歴史は『リベラシオン』155号に今年度から特命研究員となった柳井美枝前事務局員により「海外人権スタディーツアーの10年」に



スリランカの紅茶農園 (昨年度撮影)

まとめられている。第10回までは研究所主催で開催したが、2014年の第11回からは新たに「海外人権スタディーツアー企画部会」を創設し、県民啓発事業として部会がツア

一企画を旅行業者に提供し、旅行業者が主催する形で実施している。

2 部会長バトンタッチ

今年度、松本京子部会長が外国人部会長に就任した。そこで、私が部会長をバトンタッチした。研究所の担当者も柳井さんから峰事務局長に代わった。新部会へ移行して2年目を迎え、部会の組織的運営を図り今後について話し合うために第1回の部会を開催した。

3 第1回部会(6月20日)では

- (1) 経過報告～これまでのツアーの振り返りと、自己紹介を兼ね参加者の意見を出し合った。
- (2) 部会の日程～①第12回のスタディーツアーは、フィリピンのセブ島の企画、②第2回は9月に会員のプレマ・クマラさんを講師に開催する(日時未定)、③第3回は12月20日(日)に行う。

3 広げる活動

現地を訪問して人々と交流する「海外人権スタディーツアー」は貴重な経験となっている。

6月27日(土) 選擇寺(せんちゃくじ) “女の慰霊祭・紫陽花忌法要”

2015年6月27日(土)、旧柳町の遊女・雪友の命日にあたるこの日、福岡市博多区中呉服町の選擇寺(せんちゃくじ)にて、雪友とともに当寺の記録に残る580人の遊女の慰霊祭「紫陽花忌」の法要が営まれました。今の有田量俊住職が昭和60年に当寺に奉職され、遊女の記録があることを知り、最初の年は檀家さんのみで法要を始めたといいます。それを知った博多町人文化連盟から博多人形作家協会へご紹介があり、遊女580人分の博多人形が奉納されるようになりました。今年は7体奉納され、通算で160体ほどになっているとのこと。昔は千代の泉町に遊女を供養していた当寺の飛び地があったそうです。雪友の本名は阿和喜(あわき)といい、柳川の出身で、元は裕福な家の出だったのではないかとされています。雪友は16歳で柳町に売ら

参加者の安全を最優先にした人権スタディーツアーを企画していきたい。

また、10月2日(金)から10月4日(日)「ハートフルフェスタ福岡2015」が開催される。

10月4日(日)は交流ブースにおいてスリランカを中心にパネル展示などで紹介し、部会の活動を広げていきたいと考えている

(部会長 松村 良子)

ハートフルフェスタ福岡 2015

10月4日(日)、福岡市役所西側「ふれあい広場」で、様々な展示・イベントが行われます(主催:福岡市)。

「交流ブース」の福岡県人権研究所のテントでは、海外人権スタディーツアーの取り組みについて、昨年度のスリランカツアーを中心に展示します。ぜひお立ち寄り下さい!!

れ、母親が亡くなった際に当寺に金十両を寄進し、母親の墓を建て、その後雪友自身も19歳の若さでこの世を去り、母親と同じ墓に眠っています。雪友の名が掘られた梵鐘には「博多柳町 加登屋内 雪友建立」と書かれています。最近になって有田住職が、仏壇の左右の観音様を掃除していたところ、その台座の裏に遊郭の名前が入っているのを発見し、おそらくは楼主たちも悲しい生涯を閉じた遊女達を供養したいという気持ちがあったのではないかと話されていました。



奉納された博多人形(事務局 田中美帆 写真も)

投 稿 全 国 人 権 ネット ワ ー ク

人権ネット加盟団体から、今号では「草津市立人権センター」を紹介します。

滋賀県草津市立人権センター(ぴーぷる)

「スローガン」 人間を大切にできる人になろう!

人間が大切にされる世の中をつくらう!



草津市の人権シンボルマーク

草津市は、湖国(滋賀県)の南東部に位置し、東部地域には、なだらかで緑豊かな洪積丘陵が広がっており、西部地域は、美しい琵琶湖に面し、豊かな水と水田とが優れた田園景観を醸し出しています。歴史は古く、琵琶湖岸周辺では、縄文時代から社会的、経済的活動が行われていたことを示す遺跡、遺物が数多く認められるほか、東部丘陵地を中心にほぼ市全域に古墳の分布が見られます。近世には五街道として有名な東海道および中山道の分岐・合流点に位置し、中世における宿駅の設置以来、交通の要衝として多くの旅人たちでにぎわってきました。



平成26年10月に市制60周年を迎えたところですが、昭和63年10月に「ゆたかな草津 人権と平和を守る都市宣言」を市議会で議決し、平成8年7月に「草津市人権擁護に関する条例」、平成10年3月に「人権擁護に関する基本方針(平成22(2010)年4月改訂)」を制定し、同和問題をはじめ障害者、女性、在日外国人、高齢者、子ども等に対するあらゆる差別をなくし、市と市民および滞在者が協調して人権意識の高揚を図るとともに、すべての人があたたかい心を持ちあって明るく住みよいまちづくりの実現に向けて取り組んでいます。市民の自主的な参画のもとに、市民と行政がお互いに協働して差別のないまちづくりに向けた取り組みを進めるため、その拠点

施設として、移転した草津市立勤労青少年ホームの土地建物を利用して、平成14年9月1日に草津市立人権センター“ぴーぷる”を開設しました。



○主な事業

- ☆ 施設貸館
 - ・市民等の研修会、会議、会合などに施設の貸館をしています。

施設名	定員	施設名	定員
大会議室	90名	研修室	24名
多目的室	18名	学習室	8名

☆ 人権に関する研修会・講座などの実施

- ・人権セミナー(7月~11月 計9回)
- ・同和問題市民連続講座(6月 計4回)
- ・各学区・町内学習懇談会、第1講座から第4講座

☆ 人権に関する啓発事業の開催

- ・人権作品募集(6月~9月)
- ・いのち・愛・人権のつどい(9月次頁写真)
- ・人権啓発パネル展(年2回9月・12月)
- ・部落解放青年集会(11月)
- ・部落女性のつどい(1月)
- ・人権尊重と部落解放をめざす市民のつどい(2月)

☆ 人権に関する啓発・教育資料の発行

- ・人権センターだより「ぴーぷる」(年2



「いのち・愛・人権のつどい」

回6月、1月)

- ・めざめ(人権学習資料集)(年1回9月/写真右)
- ・築こう!~シリーズ~(さまざまな人権啓発冊子)
- ・人権カレンダー(年1回12月)
- ・人権作品集(年1回2月)



☆人権啓発ライブラリーの設置

- 人権啓発・教育・学習教材の貸付
- ・図書、冊子 ・ビデオ、DVD
- ・人権啓発パネル



「ライブラリー室」

☆人権相談

- 常設相談(人権相談員)

井元麟之資料目録のデータ入力が進行中です

本研究所の特別プロジェクト「松本治一郎・井元麟之研究会」は、井元麟之資料目録の電子データ入力を進めてきました。5月の定時会員総会以後、6~7月にかけて、会員、学生・研究者のボランティアやアルバイトによる集中的な作業を行いました。

福岡部落史研究会以来の懸案だった井元麟之資料目録は、来年2月発行予定の『リベラシオン』161号に掲載予定です。

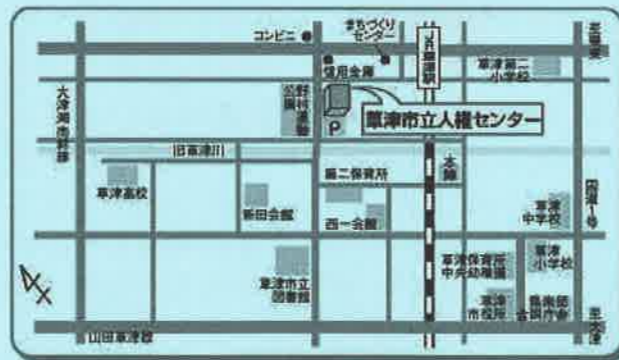
- 火~土曜日 9時~16時(12時~13時は除く)
- 特設相談
 - ・人権擁護委員による相談
月曜日 9時00分~16時00分(12時~13時は除く)
 - ・弁護士による相談
原則として毎月第4火曜日
(予約が必要) 13時30分~16時30分



「啓発パネル」

草津市立人権センター

住所: 〒525-0027 滋賀県草津市野村三丁目1-18
 電話: 099-563-1177 / 077-5631765
 077-563-1660 (人権相談専用電話)
 FAX: 077-563-7070
 E-mail: jinkence@city.kusatsu.lg.jp
 ホームページ: http://www.city.kusatsu.shiga.jp/



※ JR草津駅西口から徒歩10分

お知らせ (詳細はHPで)

- ◇第3回部落史部会、史資料プロジェクト
2015年9月12日(土)午後1時~
古賀市鹿部集会所(JR鹿部駅そば)
- ◇第5回教育部会
2015年9月26日(土)午後2時~
福岡市ココロンセンター(地下鉄赤坂駅)
- ◇第186回定例研究会(第2回外国人部会)
テーマ「移住労働者(研修生・技能実習生)問題」(講師 岩田光弘さん)
2015年9月27日(日)午後2時~4時
コムシティ2階(JR黒崎駅そば)
詳細は同封の案内をご覧ください。

会員の声 人権を“営業”する その2

宗像地区「同和」教育研究会実行委員 高原 昇 (会員)

先日の福教組宗像支部の定期総会で原案を補強する立場からの意見として第24回宗像地区「同和」教育研究会の参加をよびかけました。その時の話です。

私(高原)は今年もいつものように提案しなければならないかと思いつつも、「総会の中でいかに声高に呼びかけても参加が少ないからなあ」と少しあきらめ気分でいました。

するといふ考えが思い浮かびました。

「私たち実行委員会の新人、T先生にしてもらおう。彼のくなんともいえない味のある語り<聞く人を引き込む人間性>に賭けてみよう」という奇策がわいてきたのです。

T先生に依頼してみると、「私なんて……そそんな」と断りながらも「高原先生がそこまで頼むのならやってみます」と彼らしく引き受けてくれました。

結論を言うと大成功でした。

まず、手を挙げるころから会場のみなさんをつかみました。質問のところで手を挙げてしまい支部長から「Tせんせい、つぎの意見のときです、意見の…」とたしなめられ、いよいよ意見になると。マイクなしでそれも来賓あいさつでもないのにステージに上がろうとして、又注目を浴びました。

さらに彼はマイクを持って、執行部ではなく会場のみなさんに向かってステージ下から話し始めました。

まず、「ちらし・ポスターに、なぜく桶の木>がのっているのか」ということから始まり「実行委員会のメンバーがいかに苦労してこの集会を作っているか、

そして、「僕がこの実行委員会になりたてでほんとに何も分からなくて“すみません”と謝りながらも、「この仕事をさせてもらって分かったことをしゃべります」と前置きして、(ここですでに15分経過して私は「やるなあ」と感心していたら)「みなさん人権教育と同和教育の違いってわかりますか。ぼくは分からなかったんですが、このあいだ教えていただいて、そうかと思っただんです」とまた「すみませーん」長くなって」と言いながら、人権教育を「フルーツの木」に例えて「人権課題をバナナとかリンゴなどそれぞれの個別のフルーツに例えます。例えばバナナは部落差別でそこから学ぶ部落問題学習、リンゴは(略)、イチゴは(略)……と、個別の果物それぞれの具体性から学ぶことでしか人権教育はあり得ない」ということを述べ、だからこそ、(略)同和教育の考え方学び方はそれぞれの差別の現実を見つめ、そこから学び、差別をなくそうとする教育の営みから積みあげられた教育理念に裏付けされていること、この「差別の現実学ぶ」ということが根っこにない「人権教育」では差別をなくすることが出来ない — という意味のことを、口癖の“すみませーん”を連発しながら語り、「みなさん第24回研究会に参加してください。」としめくくったのです。

恐るべしT先生、人呼んで“あやまり侍”T先生が“すみませーん”といいながら会場のみなさんの心をつかんだ瞬間を私は見ました。それは怖さを知らない新人というひとことで片付けられないものがありました。会場は大拍手でした。

こうして私達の「人権の営業」はさらに続きます。みなさん、宗像地区「同和」教育研究会参加しましょう。

第24回 宗像地区「同和」教育研究会

- 日時・場所 2015年9月6日(日) 9時30分~受付 10時開会 福津市中央公民館
- 内容

全体会 10:30 ~ 12:00 (大ホール)
 「ていねいに、おしつけず、延々と続ける同和教育 — 両側から壁を超えるために(歌でたどる近現代史) —
 講師 古川正博さん
 (公益社団法人全国人権教育研究協議会事務局 元大阪市立梅香中学校教員)

分科会 13:00 ~ 15:00
 1 「続 はじめよう人権・同和教育一同和教育って何? どう授業すればいい?」
 講師 谷口研二さん(公益社団法人福岡県人権研究所事務局長)
 2 「性はグラデーション—13人に1人いるLGBTの子どもたち」講師 眞野 豊さん
 (九大大学院地球社会統合科学府(元中学校教員))

- 参加費 500円(大学生以下 無料です) ※託児所あり 無料
- 問合せ先 新谷 恭明 TEL: 090-9565-0368 Eメール: yasuaki.shinya.970@m.kyushu-u.ac.jp (事務局 高原 昇 TEL: 090-1190-8166)

事／務／局／日／誌／か／ら (2015.6.20～2015.8.20 講師等敬称略)

6月

- 22月 事務局会 筑前竹槍一揆ウォーク打合せ(直方市)
- 23火 編集委員会
- 27土 第2回教育部会(福岡市)「子どもの実態から出発した授業の実際－高校の数学の実践」報告；真藤雄佑 (第49回福岡県地方史研究協議大会(福岡市／書籍販売))
- 28日 第185回定例研究会(兼第1回ジェンダー部会、第1回外国人部会／福岡市)「私の出会った移住女性労働者たち」(講師；大川英子)
- 30火 公益法人定期提出書類提出

7月

- 3金 資料整理・保管のための作業(福岡市 ～7/5)
- 6月 事務局会
- 11土 第1回部落史部会、史資料プロジェクト(古文書学習／古賀市)
- 12日 筑前竹槍一揆ウォーク打合せ(直方市)
- 17金 第2回執行理事会(研究所)
- 19日 第2回啓発部会(田川郡福智町)
- 20月 資料整理・保管のための作業(研究所)
- 24金 第57回松本・井元研究会
- 25土 第3回教育部会(福岡市)「高校社会科の部落問題学習」(報告；吉田憲明)(部落解放同盟福岡県連合会定期総会(堀内副理事長登壇)(全国部落史研究大会／熊本学園大(熊本市)～7/26))
- 27月 事務局会 公益財団法人滋賀県人権センター視察来局
- 31金 (部落差別等撤廃と人権確立を目指す奈良県民集会(「水平社宣言の世界記憶遺産登録をめざす会」(略称)構成団体として理事長が参加))

8月

- 1土 第34回九州地区部落解放史研究集会(宮崎県都城市 ～8/2)
- 4火 (福岡県人権・同和教育夏期講座(福岡市／書籍販売))
- 8土 第2回部落史部会、史資料プロジェクト(古文書学習／古賀市)
- 12水 閉局(～8/16(日))
- 18火 事務局会
- 19水 第46回高野山夏期講座2015(「部落解放・人権夏期講座」～21(金))

住民意識調査等の受託事業に関する事務、研究・研修や教育・啓発に関する相談業務、研修会の企画・運営、講師依頼への対応、補助金申請や事業報告、公益法人関係事務、関係機関・団体等との連携・調整事務等については、紙面の関係上その一部を省略していません。

2015・10・27「啓発担当者のための人権講座」準備中です!!

(兼 第1回啓発担当者の集い、第187回定例研究会、第4回啓発部会)

日時 2015(平成27)年10月27日(火)

場所 一般財団法人福岡県部落解放センター 4階(福岡市千代1丁目29-12)

主催 公益社団法人福岡県人権研究所 協賛 部落解放同盟福岡県連合会

後援(依頼予定)

福岡県、福岡市、北九州市、福岡県教育委員会、福岡県人権・同和教育研究協議会
福岡県企業同和問題推進協議会

日程、内容

9:30 10:00 10:15 11:45 13:00 13:30 15:20 15:35 16:35 16:45

受 付	第 一 部		昼食 休憩	第 二 部				諸 連 絡
	開講 行事	第一講		挨拶・ 説明等	第二講	休 憩	振り返り と交流	

内容：第一講 内田 博文さん(九州大学名誉教授、神戸学院大学法学部教授)

「差別を規制することの意味～国際的な人権状況から～」

第二講 友永 健三さん(部落解放・人権研究所名誉理事)

「同対審答申50年・部落地名総鑑発覚40年」

振り返りと交流「私たちの課題、これからの取り組み」(進行 谷口 研二)

受講料 2,000円(会員1,500円)

(この企画の「第二部」(13:00～)は、例年どおり福岡市との共催事業として実施するものです。)

今後、一部変更の可能性が
あります。詳細はHPで。